

〔問 7〕「敬老事業」についてのご意見、ご要望などございましたら、ご自由にお書きください。

- 極端な意見ですが、式典をして一杯飲んでという会は無くす方向で、それよりポポロで著名な人を招いて健康・長寿・生きがいをテーマにしたイベント（1 日限り）講演会など、60 才以上が健康寿命を考える機会をもてたらと思います。
- 敬老事業に対する、市職員の方の携わった時数（人工数）をお知らせ下さい。効率化を計る為、検討しましょう。
- このアンケートを見て率直に思うのは、よき美風である敬老精神の衰退が市役所から始まることに悲しく思う。箱物行政の偏重、デジタル偏重行政の弊害が現れている気がする。敬老精神の弱い地域に未来はない。（家老、老中、ご隠居は死語か！）
- 補助金額を引き下げ、市より個人宛に郵送してほしいと思います。
- 高齢になると行動範囲もかぎられ、移動手段も少なくなります。地元で知人と過ごす時間は必要だと思います。物品は与えないけど、小さな町内会にて、よく会いに行っています。
- 町内会における高齢化は甚だしく、本来、行政が行うべき河川の清掃においても、町内会としていつまでできるか分からない状態である。「敬老事業」に限らず町内会行事においても、担う人たちが既に高齢化しており、現状を維持する事態、大きな労力を必要とするのが実情である。
- 見直し→予算を下げる事を前提となっている為、何かで補填する事も考えるべきではないかと思います。地域で支えるのであれば、町内会費で回収した一部金額を集める等
- 地域の実情に応じて幅広く活用して下さい！
- 引き続き実施していただきたいです。
- 自分自身が敬老の身、元気で過ごせればと思うだけ。コロナが早く終われば近所でも出かけられるのにと。なにかにしても事業やるといろいろいる事があり、どうしても予算の事となど、皆様のお考えにまかすよりほかありません。
- 地域にワゴン車を貸与 高齢者を交流カフェ・サロンへ送迎、ゴミ出し。高齢者の移動手段の確保。高齢者の日常の生活の支援。免許返納者等。
- 久しぶりに顔を合わせているが、参加者が減っているので寂しい、又、式典の後、演芸会を行っているが、参加者が少なく、担当者が困っている。廃止も考えている。
- 地元で行事を行う事になかなか難しい時が来ている。年齢等把握できるのは行政なので、記念品等配布するのであれば行政で対応してほしい。
- 老人は若者に比べれば金を持っている。飲食の助成より、交流・健康づくり活動の啓発に力を入れてはどうかと思う。
- 各町内会によって事情が有りますが、当町内会は収入が有るので、他の町内会とは違う活動をしているが、今後は町内の高齢化が進むと役員の高齢が進み、現状の活動が出来なくなれば、内容が変化して来ると思っている状況です。補助金は現状を望んでいます。
- 敬老事業は必要だと思うが、その事業に携わっている人も高齢になって来ているので、行事を行うことも困難になっていくと思われます。自分達ももうすぐ高齢者に含まれるようになるので、何とも言えない気分です。

- 見守りの点でも、交流場所を設定し、皆が気軽に集まれるようにする。やっさ工房の活用。
- 高齢者（75歳以上対象）地域事業の参加型、地域友愛等、外出機会のきっかけとして、敬老会の出席開催の条件を付し、記念品だけの贈呈は避けるべきであると考える。
- 特に88歳（米寿）、100歳（百寿）は、人生の節目でもあり、利用者も楽しんでおられるので、皆さんで盛大にお祝いさせていただき、今までどおり敬老事業を継続することを切に望みます
- 敬老事業の補助金は、子育て支援事業に充て、次世代を担う子供たちのために活用して頂きたいと思っています。
- 皆が集まって顔を合せ、話をする場を作る事はよい事だと思う。補助額が少なくなっても、実施した方が良いと思う。
- 補助金が減額されると町内会からの持ち出しが増えるので、現状維持を求めます。
- 敬老者を祝福する気持ちを全町内で育てていきたいので、敬老事業を実施したいと思います。
- 現在働く方が多い70代、地域に返り、地域の有りがたさを感じるのは80代ではないかと思います。現在ボランティアの人数が少なく、活動を支える人も高齢化している。生涯学習の観点からもう少し地域活動のボランティアに興味を持つ指導者・女性会・老人クラブ等の地域の団体の育成に力を入れてほしい。現在の生涯学習に何かが足りない気がしている。
- 実施にあたっては住民間の交流がはかられ、敬老者のみでなく、全市民間の状況確認であるとか、交流をはかることが出来る。
- 近年は各町内会単位の小さな身近な敬老会を実施の所もある！その理由として、多くの敬老者が集えると話を聞きます。しかし私はそれは日頃のサロンで行える事と思います。1年に1回の敬老会は、日ごろ味わえない素敵な会を催したいと考えます。それには費用はかかりますし、役員の充実も必須です。
- 自治会による、高齢者の居場所づくりは大切だと思います。身近な見守り、健康づくり等も大切です（自治会主催のサロンなど）。年一回の敬老会事業は午前中式典（行政・民生・児童委員・町内会役員・女性会・老人クラブ等横の連携の場になっている）。式典後、保育所・幼稚園・高校などの芸能協力もあり、子育て支援にもつながっている。年一回の出会いを楽しみにしている。普段あえない人達の間になっていると思う。交通手段が課題になる。若い人達のイベント参加が希薄になっており、今以上に魅力がある会になる様願っている。（若い人達にもイベントの企画に参加できる様に努力すること）
- 現在では、行われている「敬老事業」への目的取組みに対し十分理解しているので、必要性というのは認識できているが、現状の費用の枠の中で、地域の高齢者福祉への観点から、各地域の団体での高齢者福祉活動（サロン、見守り、健康づくりなど）に取り組める費用を含め、敬老会事業費を按分にして使用できたら良いのではないかと思う。
- 各団体に最も相応しい敬老事業を企画してもらい、上限を設けて、予算申請してもらい、自主運営に任せては如何でしょう。（もちろん、立ち上がるまでは、事例や方法等示すなどの行政支援も必要だとは思いますが）
- 見守りや健康づくりなど高齢者福祉の充実に資する地域活動への補助金の増額にまわしたらと思います。
- 高齢者数が多くなり、集会所又は公民館へ足をはこぶのもむずかしく他の人に手間がかかる。
- 一人暮らしの高齢者が笑顔になれる適切な活動があれば良いと思う。80才88才99才の節目に、好きな食べ物や花、幼稚園児の手紙を手渡すなど、地域で負担とならない程度の交流が良いのではない

でしょうか。地域の人との写真でも良いかも。

- 現住所に本人が住んでいる、いないの確認がむずかしい。確認のやり方がもっと良い方法があればいいと思う。
- いかにかぎられた金額で、皆さんに楽しんでもらうか。関係者・招待側は大変なのです。
- 敬老事業について、住民組織と高齢者福祉施設とを分けて考えていく必要がある。高齢者福祉施設には、お金がある限り現状でもあまり問題はない。しかし、住民組織が実施する内容は、事業費が有効に使われているか問題も多い。(参加者減少実施団体の負担、年に一度の大事業、マンネリ化)。そこで、比較的元気な高齢者が歩いて集会所等に集まり、食事をしたり、会話をしたり、防災・介護予防などの学習をしたりする事業の充実を図る方向に補助する方が、高齢者の健康づくり、自立支援につながり、自宅で長く自立生活をすることになる。自宅で過ごしている間に記念品はあまり必要ではない。施設で過ごさなければならなくなったとき、敬老祝いをしっかり行い、記念品も贈るというように2つに分けて考えられたらどうでしょうか。前期敬老事業⇒後期敬老事業
- 町内会や市内マンション自治会でも、参加者だけでなく敬老会を実施する者が高齢化しており、難しくなっていると聞きます。以前の方法はやはり見直す必要があると思われます。前質問に対象年齢とありますが、〇〇以上とせず、喜寿・米寿・白寿等くぎりに補助金を使ってお祝い出来ないでしょうか。
- 毎年高齢者が増加してきています。団地内も10年もすれば大半が75才以上になる予想です。今から何か手を打つ必要があると感じています。要望としてコミュニティバス、タクシーの希望があるようです。→こちらに予算化していく案も検討して下さい。
- 敬老会を楽しみにしている方が多い。今年から70名位の方が入れる場所、会場が無い。対象年齢は80才以上にすれば、75才からはまだ若い。記念品配布で祝ったら、等々。
- 年齢が高くなると(90才以上)個人では動けないので敬老会の出席がむずかしい。会場のトイレ、車椅子での出席(小学校体育館は対応できない)。補助金が少なくなると、敬老会、記念品の実施が困難(町内会費を敬老会につかえない。会費の値上げが必要←会員から反対が出る)。敬老事業が必要と思う。運営を町内にある事業所(病院・老人ホーム)と連携してできると良いと思う。
- 2025年までの後期高齢者増加の問題は常識となっていることから、むしろアンケート前文か調査の目的の中で見直しの必要性をストレートに説明した方が判り易い。補助金見直し理由の主旨が費用面なのか運用実態の改善なのかあいまいであり、補助金額の抑制へつながりにくい。敬老会参加者減少問題は、合併時からの資料ない為に推移は不明ですが、微減少傾向と思う。他方、後期高齢者としては参加辞退者や健康面からも参加率30%は妥当ではないかと思う。設問6は、現行制度の敬老会開催や記念品配布に賛成である為、敬老会開催 2500円/人 記念品配布 1500円/人。補助金の見直し(減額)の必要性は承知ですが、一律の処理ではなくメリハリをつけ段階的に進めてほしい。
- 記念品は楽しみにされている方が多いので、金額の変動は別にしても、続けた方がよいと思う。
- 昔は高齢者(75歳以上)は何もすることがないと言っている人が多かったようです。現在は自動車を運転して自分の好きな所に自由に行くことができるのです。好みも多様化しており少々の敬老事業では納得しないのだと思います。よって敬老事業も側面的で任意性のもので実施することで良いと思います。
- 他の同様のアンケートでいやな思いがある。生活環境部の環境推進員に関わるアンケートで、今回同様に検討の基礎資料とすることを目的と言いながら、そのアンケートをエビデンスとして市内部で決

定して、議会承認をとり、決まったからと住民説明がおこなわれ、住民多数の反対意見を無視された。今回の様に特に、住民組織の町内会、自治会の会長は普段の全員との会話等から総合的に自分の考えも含め、判断してアンケートに真摯に答えるが、あくまでも検討の基礎であり、アンケート集計データをエビデンスとして、方針展開に悪用しないでほしい。市民生活に直結する制度変更はもっと慎重にしてほしい。あとから住民にせめられた、いやな思いが、この様なアンケートにはあったことを承知下さい。

- 祝賀会実施に当たっては、食事の後、余興を実施しているが、以前は町内の有志により実施して来た。現在はそういった方が高齢者となられ、今はボランティア活動の方をお願いするようになっています。こういった事により、一年前から計画しており、担当役員や会長に負担がかかっている為、悩みの種になっている。
- ほとんどの方が敬老です。考え方を変えて、一生役に立つ人間でいたいし、何かしてもらうより、何かしてあげたいと。町の掃除でも、できる事をする高齢者でいたいと思います。
- 敬老の人が本当に喜んでいただくのは、身内の人が暖かい声掛け、食事、世話をいつも、時々でもする事が一番です。(身内の人、家族、子、孫)
- 敬老の人を敬老会で世話する人は、主に高齢者の人です。敬老会は他地区も同日のため、余興など来ていただくチーム選びがむずかしい。魅力に乏しい。本地区では、とくに高齢者の人、不特定の人が屋内で参加する集いはコロナのレベル2以上は出来ない事が決まっています。2年開催していません。敬老会に参加する人は、いつも決まっています。改善は見えません。敬老会で長時間、椅子に着席するのが大変、おもしろくないあいさつ、移動手段ない人。
- 敬老会は祝賀の意味だけではなく、地域を支えてこられたことへの感謝もこめて、市の補助金だけでなく、一戸当たり 700 円負担で実施しています。もっと増額して下さい。
- 長年 苦勞されて社会のために努力されたことに対する感謝するためのもの。少々、金もかかるが、それは若い者のつとめである。
- 公民館が2階にあり、階段を昇るのが困難。町内会やサロンにも参加できない独居老人の支援に補助金を使ってはどうかと思う。町内会は会員が対象であり、会費で町内の非会員のお世話をするのは無理がある。
- 町内会会員以外にも記念品を配布しなければならず、大変負担である。敬老事業に使用するならすべて町内会に任せてほしい。
- 今まで社会の為に尽くされた方々を敬い、ねぎらうこの事業はぜひ継続頂きたいと思う。高齢者福祉の為に予算等しっかり見直して頂きながら継続を望みます。
- 対象年齢も引き上げ、記念品の配布のみの事業にしてほしい。
- コロナ中ですので会合もほぼなく、今年農区長でしたが、敬老会のお手伝いもほぼしていませんので、正直よくわかりませんので、申し訳ありませんが答えることが難しいです。現場のご意見をよくお聞きになって、よく検討されればよいのではないのでしょうか。Webアンケートフォームですが項目に「どれでもない」がないため、前にすすめませんでした。
- 超高齢化社会を迎えるなか、必要最小限の事業のみ（それも精査して）で良い。
- 私の自治会は団地という区域になります。軒数は10以上ありますが、それでも町内会長や会計等の大役を受けてくださる方は皆無といった状況です。わが町内会も例外なく高齢化が進んでいます。以前は女性会とか、かろうじてあったようですが、現在は活動はありません。年一回の敬老事業は、そ

ういうわけで大変な作業となっています。本来は高齢者の方々に喜んで頂くために、させて頂くことなのですが、かなり負担になっております。

- 記念品配布のみでもよい
- 現在の 80 歳以上の皆様は、先の大戦でとても苦勞され、戦後は国の繁栄に多大なご貢献をされている。国民全員が、感謝の気持ちを形をにして持ち続けるべき。晩年を寂しい思いにさせてはならないと思います。
- 高齢者が増えるばかりです。これはどうしようもありません。特に今は、コロナのせいで高齢者の行動が気になります。民生委員の補助をやっていますが、行きづまることがたくさんでできます。これらをどのような手順でいい方へ導くかを模索しています。この道のプロの人に、お願いする事が一番いいと思いますが。個人情報がどうのこうのと思う様には進みません。もっと道しるべになるようなルートを教えてほしいです。住民の半数以上が高齢者です。
- 限られた予算で難しいと思いますが、敬老会に参加したいと思われるような企画が必要だと思います。各地域の福祉部長及び福祉委員だけのアイデア、企画では限界あると思います。市の福祉担当の参加が必要だと思います。
- 記念品の配布のみが良いと思います。
- 補助単価を 3000 円に上げてほしい。理由として現状 3000 円/1 人費用発生している為。
- 厳しい世の中ではありますが、今まで頑張って来られた方々に、長寿の祝いをしてあげたい。人生、誰もが歩む道です。よろしくお願いします。
- 現状でよいと思います。
- 災害発生時、高齢者（病弱者）への支援をどうするかが大きな課題となっている。当団地では、初年度は、敬老対象者に非常持出し袋、2 年目は保存食を個別に配布した。今後もこうした防災グッズを配布予定であり、こうした補助金などの支援は大歓迎である。また、敬老会事業の記念品は、防災グッズ代と残し、「防災■福祉」へ力点を置く必要性を強く感じる。今後、南海トラフ地震、毎年のように発生する大型台風、土石流等による被害は大きな不安要素である。
- 私方の町内会は、75 歳以上が 16 人に対し小学生は 1 人。高齢者は年々増えていき、お世話をするのも高齢者になりつつある。元気で敬老会に参加できる人はいいが、参加が難しい人が増えている。
- 本アンケートは、敬老事業の対象者（高齢者）に対して、実施すべきではないでしょうか
- ①記念品に頼ることなく、「敬老意識高揚」を図る方法の検討（多様化）が必要。高齢者施設では、「敬老会」は必要だと考えています。ただ人数増えていく中で、お金のかからない形の検討が必要。②町内会では、参加率が低く後日記念品を配るだけとなる所が多い。特に町内会では、別の形（健康体操、介護予防鶴ウォーキング e t c）での検討も必要。③限られた予算を有効に使う選択肢を増やすべき。
- 現在の町内会組織は入会をしない、役員に成り手がいない状況です。しかし、これからは大変な社会となる恐れがあります。災害等で人の命が、社会が乱れる恐れがあります。町内会で敬老会を開催していますが、止めればますます地域活動が薄れます。もっと行政は地域と連携して、その地域にあった行政を願います。
- 高齢者を大切にして、皆で声掛け（普段～）見守る事、気を止めて目配り、気配りして孤独感を持たせない事。人生の先輩の生き方、感じ方を話しする事が日本の平和がある。限りない人生に向かって前進あるのみ。
- コロナ株、オミクロン株が広がるおそれがあるため、記念品の配布だけでよい。

- 事業を拡充するのは行政としての役目かもしれませんが、実施するのは各地域です。地域によっては、町内会組織の体制づくりが最優先課題のため新たな事業には対応できないところがあることを理解したうえで検討願いたい。
- 私ども町内会では、社会福祉協議会の支援の下、「サロン活動」を実施しており、町内会長の私が一応代表として運営してきている。この「サロン活動」は高齢者ばかり 12～13 人の小規模ではあるが、真の敬老活動と呼べるものではないかと思っている。月一回集まり、おしゃべりや歌や体操や健康講座、脳トレで有意義な時を過ごしており、これこそ地に足をつけた敬老活動と思う。市の行政として社協とのサロン活動との連携なり、援助強化なりを考えてもらいたい。町内会行事として、「ゲートボール大会」や「のぞみの会と連携で夏祭り」を計画している。高齢者中心ながら、町内会の子供やその親も交じって相互交流を深めている。こういう異世代交流も今後大切になると思う。
- 一年一度、皆さんとお会いして近況に花が咲き、楽しい時間を過ごす会であり、楽しみにしています。財政的には、厳しい面はあるとは思いますが、継続していただければと思います。
- 超高齢社会の現在、地域によっては、75歳はまだ現役世代です。その意味では、事業対象年齢を引き上げることが見通しになるのではないのでしょうか。一方で、人と人とのつながりが希薄になっている現状を考えると、事業継続は大切だと思いつつ、事業を担う人の不足も課題です。(例えば担い手の高齢化など)
- 担い手がない。敬老者でありながら実施団体でもあります。
- 少子高齢化の時代。これからは防災、福祉活動に重点を移すべきと思う。ただし、人間関係が希薄となったこの時代、歴史、文化、伝統行事(秋祭りなど)等は、可能な限り残す工夫をせねばと思う。
- 敬老精神が低下する、三原市がそれをすすめることになる。
- 健康づくり
- 対象年齢を現行より上げれば大半の対象者は参加が難しくなる。お世話する側の負担も増えることとなり、敬老会の開催は無理となるだろう。従って今は現状通りとしたいが、今後は、これまで以上に地域や町内会によって事情が異なってくることが想定される。見直しのタイミングとも思う。
- 何か、お年寄りにも出来る、生き甲斐になるような趣味的で小遣い程度の収入が見込めるような仕事なんてないものなのでしょうか？
- 高齢者に配慮することは大切ですが、コロナが転機となってかなりの見直しも大切ですが、一番は子育て世代の援助、暮らしやすさに尽きる。と、思います。以上
- 数年、コロナの影響で敬老会としての開催はできていませんが、補助金を利用して敬老記念品の配布をさせてもらっています。利用者様も喜んでくれています。今後も、継続していきたいと思っています。
- 昨年、補助金を利用して敬老記念品の配布をさせていただきました。利用者様はお饅頭も記念品もとても喜んでいました。これからも続けて行きたいと思っています。
- 敬老の意義を十分理解すれば金額などは関係無いと思う、敬老の気持ちをいかに表現するかだ、高齢者が気軽に参加出来る場所と機会を提供出来るかだと思う。しかし、皆さんは個性が強いので中々難しい。世話人のレベルアップが必要です。
- 三原市市役所の職員が関心がないのではないのでしょうか。いずれ自分たちも敬老者になる。
- 敬老事業自体は、祝賀会の開催内容の見直し等を実施して、本来の趣旨に沿って実施して経費の削減

を図る。費用の削減分を高齢者福祉の活動へ補助金を創設して欲しい。

■事業は必要。

■町内会の役員の高齢化に伴い、行事の進行が難しくなっている。

■補助金額推移の表からも分かる通り、年々75歳以上の人口が増え、年間補助金額も膨大になってきている。市の重要課題などに補助金を使用されるのが望ましいのではないかと。

■難しい面もあるが、地域コミュニティを高める別の活動も必要かもしれない。敬老行事は現行で良い。

"

■地域性もあるかと思いますが、私達の地区では、一年に一度の敬老会を楽しみにしておられる方も多数おられます。(施設に入所されている方も年々増えていますが)コロナが収束しましたら、できる限り続けていきたいと思っております。

■敬老会に出席依頼しても、自分は未だ若いと思ひ出席しない人が多いと聞いています。

■狭い集会所(部屋等)に集合しての飲食は数年間困難だと思う。また、世話をする人との接点も気になる。高齢者はマスク着用に関してあまりリスクを感じない場合が多い。ほとんどが野外ではマスク着用しないで会話をしている。町内会として敬老事業への将来の方向性は見いだせてないが、高齢者とその家族の考え方もくみ取って検討する必要性を感じている。

■我が町内会も年配者が多くなり、行事の参加者も減少しており、行政主導で定期的に催しを開催して頂き、横の繋がりを大事に出来たらいいなと思います。

■将来的に自治会へワゴン車を貸与して頂きたい。

■高齢者のサロン事業・防災避難時の送迎・ゴミ出し等に自治会で運用"

■女性会で事業を開催してきましたが、両組織の高齢化により担い手不足、式典後のプログラム(演芸)演技者不足等により開催が難しい状況にあります。

■今後の事業開催は、希望する、町内会・地域(ブロック)での開催が望ましい。"

■現在は、コロナ感染症対策中のため、縮小して敬老会を利用者、職員のみで行っているが、敬老会が一番メインの行事であり、また、ボランティアや利用者の家族に来荘していただき、お祝いをしていただいているため、補助金を出していただき大変助かっております。

■敬老事業の補助金の削減を検討するよりも市議会議員数を削減したり、市役所職員の削減をまず検討すべきである。民間企業に勤めていた立場から見ると色々な面で無駄が多すぎると感じる。"

■毎年同じ形式の敬老会でなく、健康づくりや防災教室の開催、記念品配付など地域で年毎変更しても良いのではと思いますが、地域での取組には、パワー一面を含め限界がある。継続するためには行政や関係団体等のより積極的な支援・主導が必要と考えます。

■高齢者に敬意を表し、長寿を祝う活動を継続していくことは肝要であると思います。

■対象者の喜ぶ姿がなにより、事業は継続してこそ意義がある、今後も工夫して継続してもらいたい"

■何か手助け訪問が、嬉しいのでは？

■地域や規模により、事業催事等の格差があります。今後、お世話をしていた方々が一気に敬老対象となり、催事は徐々に困難となるであろう。形式も変える必要があると考えます。

■敬老の考え方は大事です。しかし高齢者だから何でも優遇するというのは財政的にもう限界では。元気で動ける高齢者がたくさん居ます。そんな高齢者が参画できるものがあればと思っています。

■町内会単位くらいで継続的に取り組めるようなことができればいいと思う。

■補助金の一人当たりの金額を上げてほしい。消費税が上がっているので実質減額されている"

- 現状はたいへん高齢者が多く、敬老会があっても行けない。敬老会の景品を配るだけでも不在が多く自治体の負担が多い。景品も食べずに賞味期限切れで捨てるなどあまり意味がないです。
- 若者世代に予算を多く割く
- 高齢化が進み町内会活動すらスムーズに進まず、退会される方が多く見られます。その中で魅力ある町内会活動とは？と役員でアイデアを出しながら頑張っています。敬老事業も継続していきたい事業の1つです。年に一度ではありますが、皆で集い食事や会話、演芸を楽しみ、また来年も会いましょう！と別れます。この日の為に熱心に出し物を準備される高齢者さんから話を聞くと、私達スタッフも頑張らないと思います。財政的に大変な事は分かります。しかしながら町内会としては行政の補助無しに敬老事業を継続していくには無理があり、現行のままとはいかなくても、継続していけるように考えていただければと思います。"
- 人との結びつきが気薄になっています。敬老の日開催準備に若い世代が進んでする様にする。祖父母、父母に有難うと言える場所にする。心の絆を深めていける場所でもある。楽しみにされている、お年寄りも多くいられると思います。予算不足、年齢をあげる、人口減少がすすんでいると、考える前に開催しながら、一番良い方法を見つける。
- 現在、3町で敬老会をしていますので、現状のままで行いたいです。
- 町内の敬老者は約800名、会場に来られて祝賀会に参加された人は約140名（一割弱）です。少ない理由は「高齢の為」「会場に行く手段がない」がほとんどです。今後は、町内ごとに近くの集会所で近所の人たちがお世話をして、敬老者を祝福する様に変える必要があると思います。その為には、敬老者の把握が必要で、この事が災害の時に役に立つと思います。
- この町内会も役の担い手がなかなか決まらず、毎年決まった人たちばかりに負担がかかっている。
- 高齢化で敬老者が敬老会を開催している状況であり、出席者も数人と大変少なく、義理で参加しているような状況もある。内容も会食カラオケ程度で魅力的とは言えないが、なかなか充実させるのも難しい。記念品配布は喜ばれる事もあると思うが、準備配布に手間がかかるうえ、去年と違う、前のほうが良かった、これはいらないと内容に意見を言われることもあり、また留守宅に何度も訪問したり長期不在の家庭の物の保管に困ることもある。町内会を存続させるだけで大変な昨今、お祝いしたい気持ちはもちろん皆さんあるが、町内主催の敬老行事をこれまでと変わらず続けていく事は大変困難であると感じる。町内の役員の順番がまわってくるという負担に恐怖を感じ、脱会と結論を出す高齢者がいる中、町内主導で負担の大きい敬老行事を行うことは矛盾していると思うし、もっと喜ばれる支援を考えたい。
- 自治振興会での敬老会開催だが、コロナで2年間開催なし。記念品配付のみ。本来の準備等の変様はわからないが、一人当たりの補助金額や、地域に負担を鑑み、より良い敬老事業を検討願います。
- 敬老会の開催が本当に高齢者の方に望まれているものなのか実際にアンケートをとってみてはどうでしょうか？敬老会の予算を高齢者の方が本当に必要とされている事業に使えるよう願っています。
- 75歳以上全員とせず、例えば喜寿、傘寿、米寿、卒寿、白寿、紀寿等長寿祝いとして感謝状と記念品を渡すようにしたらいかがでしょうか。（いきなり止めると、皮肉られます）"
- 高齢者が増え、集会所も入りきれない状況ですし、コロナなども考えると集まる事が難しい状況です。今後は、記念品配布が主になると考えると補助額減額も仕方ないかと考えます。また、その費用の一部は次世代の子供たちに使用する事も高齢者は喜んでくれるのではないかと考えます。
- よくわからない、このアンケート事態がよくわからない

- 敬老の人が、家にこもったままにならない様に出かけやすい、老化の進行を進めない本人と家族の努力がいたると思ひました
- 敬老事業も大事ですが、地域づくりのためには、若手世代に協力してもらうことも必要だと思ひます。今後、人口減少が加速していくと思ひれます。広範囲の世代が活用できる事業であつてほしいです。
- 少子化で、自分の親、祖父母を大切にしたい貴重な時間を、他人に使われる事に違和感がある。
- 公務員のように確実に休みがある人達ばかりでは、ありません。医療や福祉の関係者は貴重な休みをこんなことに使われる事に違和感がある。"
- コロナ過の中感染防止に宅配会社を利用しました。商品額を下げることも考えましたが商品を先に決めたので、足りない部分は町内からねん出しました。各々の会で考慮するものなのでしょうが、わが町はそうにしました。別に意見でもなく要望でもありませんがこのような街もあるのだという参考になればと思ひ記しました。
- 敬老事業を行うとすると、所属町内会が主体となると思ひます。昨今の町内会も高齢化が進み高齢者同士で実施するようになります。町内会に加入している中には若年層の会員が見られます。これらの若年層の人たちを如何にして町内会活動に参加してもらうことも重要な要素ではないかと考えます。若年層の方々は通常は就労・共働きや子育て、子供の部活動等で休日にも時間が取れない場合が多いと思ひれます。他の地域の状況を知りたいと思ひます。
- 今の事業は敬老者が少数で担い手も若い時代でお互いが楽しんでた事業であるように思う。今は高齢者は高齢者施設やデイサービスの利用も増えそちらでの敬老事業があり、その利用をされている方も多い。また担い手は生活のため仕事をされる人も担い手不足である。担い手も高齢化している。地域としては安全且健康でいわゆる健康寿命の延びる福祉に手を差し伸べて欲しい
- ①長寿の祝い②長年に渡る地域貢献への謝意
上記を町民みんなで伝える事が出来る機会として大切な事業であるため、記念品や食事の提供は継続していきたい。
- 商品券でも良しにしてほしいです。
- 個人情報保護を理由として、氏名・年齢・家族関係・住所などを公にしないと方向性が行政から示されているが、地域コミュニティの一体性を図るうえで、どうなのか。(プライバシー保護?, 地域住民情報の共有化、地域内での支え合い)
- お金ではなく、タクシー補助券や三原市のごみ袋 10 枚配付などでもいいかもしれない。
- 敬老補助金削減は理解できる。町内会の負担が増えるため、町内会予算の都合もあるので前もって連絡をお願いします。
- 祝賀会を行っているが、結構欠席が多い。記念品だけで良いのではと思う。
- 100 歳まで生きることを踏まえて、多様な活動の場を考えることが必要。
- 敬老会を行なっていないので、本事業の事が十分理解出来ていませんが、設問によっては高齢者の声を聞いたほうがよいのではと思ひました。
- コロナ禍で各家庭内でストレスがたまる現在なのでもう少し各地区の施設を無料開放するなど利用促進を図ってほしい有効利用させてほしい
- 町内会単位の事業であるなら、市の担当者に町内会の地域(住所)を知ってもらいたい。名簿の中に町内会以外の地域(住所)の氏名が記載されていて、無理矢理押しつけられた経緯があり、担当の役員が困惑して、やむなく町内会で対応した経緯があるため。

- 敬老事業見直し必要：市の補助金制度が有るから問題(多い少ない)が起きており、制度そのものを早期に廃止すればよい。広島市のように補助金「なし」とすればよい。
- 100 歳になった時点で「お祝い」をしてあげれば良い。(もうそのような時代になっている)"
- 1. 敬老事業の趣旨が「長寿の祝い」であるならば、75 歳は年齢的に早すぎる。その趣旨が「高齢者への敬老意識を持つ」であるなら、75 歳で良い。2. 当町内会は、補助金があるから敬老事業が可能な財政状況です。
- 市の方から記念品のみ 75 才以上の人にメール便で送ってはどうですか？
- 超高齢化が進み、元気高齢者の割合が減少しているように思われます。以前ですと敬老会に行けば美味しい昼食をいただき、面白い演芸を見ながら美味しいものを飲めたので参加が多かったように思います。現在は、老老介護等もありなかなか敬老会の会場に行けません。又、元気高齢者は自分の好きな仕事や趣味、加えて家族のレジャーに熱心で敬老会に足が向きません。敬老のあり方を考え直す時期に来ているのではないのでしょうか。"
- 高齢者が増加しているにも関わらず、年々敬老会への参加者が減少し 40%を下回っている。またコロナ渦により会そのものが開催できないでいる。敬老会存続の意義が廃れている。この補助金を子育て支援に使い高齢化を阻止する方が重要です。限られた財源を是非とも若い世代に投資して戴きたい。高齢者の方も同意見の人が多く早期に実現してください。
- あまり高齢になると敬老会に参加出来ない人が増える。民生委員の訪問は断られるが、記念品は、渡す時に会って近況を聞くことが出来る。
- 特にありません。喜んで敬老会を開催しています。
- 商品代金支払いで無く、現金、商品券で良いと思う。
- 高齢化率が 67 パーセントを超えている地域では世話をする人の負担が大きい。外部からの演出の斡旋をして欲しい。
- 手続きが煩雑で郵便物のやり取りも多く、もっと簡単に手続きができないものかといつも思う。戴いた補助金は、必要なものを選んで購入するために使っている。非常に助かっており、喜ばれている。ここ 2 年はコロナ感染予防の観点から敬老会を開催できなかったが、開催した場合はたいへん喜んでもらえている。補助金額の推移をみるに、この先も同じ補助事業を継続するのは難しいと思う。この予算を独居老人の見守りやサポートの回してもよいと思う。
- 補助金を使わずに敬老者に喜んで頂ける市政からの支援があると出席を促すことが出来ると考えます。例えば、市長・議長の方や、ゆるキャラ（やっさだるマン）が来場されて高齢者に寄り添うような声掛けができる時間を割いて頂いたり、三原テレビで放映できると来場が難しい高齢者も三原テレビ放送で見れるので喜んで貰えないかと思います。日時については他の地区と重ならない様に調整できます。
- 現状の補助金制度の持続を希望します。
- 敬老会を開催する時、目玉となる演芸の手配に困っています。町内の規模が小さいため予算が少なく、ボランティア的に少ない費用で出演をお願いしています。そのためか参加者が限られており、あまり皆様の期待には応じられていません。三原市の支援を要望いたします。
- 対象者を 90 歳以上に引き上げ、一堂に会してのイベントはやめて祝い品等を自宅へ届ける。
- 敬老事業を喜んでいる高齢者はあまり見かけない。その予算をほかに必要な高齢者支援事業に回すべきと思う。

- 必要なことのみをするのが良いと思う。
- 時代も段々と変化していく中、それにそったものに対応していくことが必要かもしれません。
- 老人会が無いため敬老会が皆さんの楽しみの一つ、大事な行事です。
- 健康状態に大差あり、会の開催には疑問を感じている。記念品贈呈で等しく感謝の気持ちを持ってもらう方が良いと思います。
- 広島市には補助金が無いことや、他市の補助額が少ないことを初めて認識しました。それを考えると三原市の高齢者は恵まれていると言えますが、敬老会というイベントを行うには世話をする人が少なくなると負担感が大きく、記念品で済まそうとしても、モノの豊かな時代にあって、喜ばれる品物選びは難しく、また数千円の記念品を心待ちにしている高齢者は少ないような気がします。そんな1回限りのイベントや物品より、日常的なゴミ出し支援、買い物や病院通いの送迎などの方が喜ばれるでしょう。もっと大きくとらえれば、高齢者もさることながら、子育て世代や子供食堂的な事業に原資を振り当てるべきではないかと考えます。年間 4000 万円から 5000 万円の税金をどのように有効に使うかを見直そうというこの動きは、どういう結論に落ち着くにせよ、賢明な対応であると考えます。
- 明神南町内会の敬老会対象者は 70 歳以上で行っている。我が町内会も高齢化が進み、今後対象年齢の引き上げを検討する時期に来ている。
- 自分たちは、自分たちの考えでしか回答出来ないが、敬老会を楽しみにされている高齢者がたくさんいるのであれば、継続の必要性があると思う。過疎化している地域では、なかなか他者との交流もない。
- 高齢者が社会の見本になるような事業の推進が必要。
- このアンケートは、若い方が作成し、市の考えに誘導されているような設問になっていると思われます。福祉だけでなく、市全体、教育委員会も含めて、縦割りではなく、見直す時期にきているのではないのでしょうか。
- 市の事業としてもっと積極的に参画した方が良い。今のままだと各町内会任せの感じを受ける。
- 会を開いても、(送迎のバスがあっても)バスが来る場所までが、行けないからいけないなどの声が多い。
- 必要性を感じない事業だと考える。自分が高齢者になったときに記念日配布等して欲しいと思わない。役員の負担を増やすような事業は不要だと思う。高齢者より、これからを担う働く世代の町内会行事負担を減らさないと暮らしにくい。
- 敬老世代の方が楽しめる参加型のイベントを地域ごとに考えてほしい。
- 現在の居住地は高齢者ばかりで 60 以上の人間が敬老会を取り仕切って実行していますが、もう敬老会は毎年出席者も減少してます。殆ど敬老会事態を廃止してもらいたいです。対象者には商品券等配布で宜しいとおもいます。
- 少子高齢化は避けられないため、高齢者優遇のあり方を見直すべき
- その他の欄がないため、選択できない案があります。(案) 敬老会も敬老事業も一律、2000 円/人とする案はいかがでしょうか？この先も、コロナで当面、3 密を避けねばならない状態が続くと思われます。敬老会をむりやり開催している団体がありますが、感染防止の観点から？だと思っています。一律 2000 円の案では、三原市の財政もかなり助かるのではないかと思います。町内会に加入しているお年寄りの方は、敬老記念品を貰えるので加入している人も多くいます。町内会に加入していれば、回覧板を回して、孤独死も防げます。また、近所通しで声をかけあって、健康確認ができます。

- 我が町内会はコロナ以前は敬老会を実施していました。町内のいろいろな人に支えられて会が進行し、参加された方々には、忘れられない思い出が残るものと思われます。準備は大変ですが、報われる行事だと思っています。いまは、コロナのために、記念品の配布だけにしていますが、3種類の中から選択方式としており、これも、とても好評です。（三原市からの補助金交付のお陰です。ありがとうございます。）（三原市の他の事業の中で、無駄な費用を見直してはいかがですか！）"
- 町内会では後期高齢者が集まり活動する団体組織はありません。15年位前まではありましたが、解散されました。毎年、敬老の日に対象者を確認することは、町内会にとっても大切な事だと思います。高齢者の増加等で予算も厳しくなるばかりですが、減額しても、継続を希望します
- 「見守りや健康づくり」、「まちづくりや子育て支援」が重要課題であるなら、もっともっと積極的にICT,IOTを活用することが肝要と考えます。サポートする側の時間制約や負担を軽減しないと持続可能とは思えないと思います。みんなでアイデアを出し合ってICT,IOTに取り組むべきと考えます。